大東市新庁舎整備における庁舎機能向上

プロジェクトチームの

活動記録（令和元年度活動分）

令和２年７月

目 次

１．プロジェクトチームについて　・・・　Ｐ２

２．活動内容　・・・　Ｐ６

１．大東市新庁舎整備における庁舎機能向上プロジェクトチームについて

設置の目的等

■大東市新庁舎整備における庁舎機能向上プロジェクトチーム（以下、庁内PT）とは

本市の新庁舎の整備における庁舎機能の向上に係る検討を行うために、大東市プロジェクトチーム設置規程に基づき、平成３０年６月１９日に設置。設置期間は令和３年３月３１日まで。(大東市新庁舎整備における庁舎機能向上検討プロジェクトチーム設置要綱より。)

■設置の狙い

①従来の庁内検討体制は、主に部長級によって構成された推進本部会議が中心であり、**多くの市民と普段から接する職員(若手職員)の声**を十分に反映できる体制ではなかった。
②市役所の業務内容は、福祉部門や土木部門等、非常に多岐に渡っている。それらの業務に対応した庁舎とするためには、**多様な部署**の職員が、**日頃**、庁舎についてどのように感じているか、その**感覚**を取り入れていくことが必要。

■会議の運営について

①多くのアイデアや意見から生まれた、新しい視点や発想を取り入れることを目的としていることから、**ブレインストーミング**の手法を積極的に採用。他の意見を否定するだけの発言は控えるよう、参加者に依頼。
②当面の目的を、将来の社会やまちの在り方から、未来の行政・庁舎はどうあるべきかという**マクロ的観点**から意見をまとめることとした。（今後は具体的な庁舎機能についても言及する予定。）

庁内PTの位置づけ

○庁内PTの第１回会議開催時、庁舎の検討状況としては、**庁舎の在り方に関する基本的な考え方**を示す**「基本方針」**の策定を目指していた。
○基本方針策定に当たっては、より多くの市民や職員が議論に参加し、**多様な視点**からの意見を取り入れることが重要。
○庁内PTは、特に**若手職員**の意見を集約することを目的に設置。会議での内容は、**基本方針策定時の参考**とするとともに、今後は、より具体的内容についての検討を行うことも視野に入れている。

◆庁舎に関係する会議体一覧（令和2年７月時点）

大東市庁舎の在り方等に関する審議会	公募による市民、学識経験者、関係団体の代表者ら１５名によって構成された附属機関。 基本方針策定等の参考とするため、庁舎の在り方等について、意見をいただく予定。 座長は波床　正敏氏。（大阪産業大学　工学部　都市創造工学科　教授）
大東市庁舎整備に関する推進本部会議	副市長、教育長および各部等の長らをもって組織された庁内の会議体。 庁舎整備の手法の調査、研究や新庁舎に関する計画等を所掌事務とする。 本部長は副市長が、副本部長は政策推進部長が務める。
大東市新庁舎整備における庁舎機能向上プロジェクトチーム	各部等の上席主査以下の職員によって構成されたプロジェクトチーム。 庁舎機能の向上に係る検討に関すること等を所掌事務とする。 令和元年度は、ワークショップ（体験型講座）や民間施設の視察等を実施し、新しい庁舎のあるべき姿について、班毎にとりまとめを行った。

参加メンバー

上席主査以下の職員を対象として、①庁舎整備の検討にあたり関係性の高い課　および　②各部等からの推薦により、令和元年１２月、以下の２５名を庁内PT委員として任命した。

部	課	役職	氏名
危機管理室		主査	勝又　瞬
行政改革推進室		上席主査	中嶋　健之
戦略企画部	戦略企画室 戦略企画Ｇ	係員	岡﨑　拓也
	戦略企画室 情報政策Ｇ	係員	岡田　美津子
	戦略企画室 広報広聴Ｇ	上席主査	藤原　貴大
政策推進部	公民連携推進室	係員	堀田　明裕
	財務政策室	係員	宮本　浩児
総務部	総務課	係員	山口　大河
	課税課	係員	渡邊　裕美
	人事課	主査	銑野　恒司
市民生活部	市民課	係員	中岡　亮
	人権室	係員	西川　龍太郎
	環境課	係員	山﨑　美喜子

部	課	役職	氏名
保健医療部	保険年金課	主査	石山　和徳
	地域保健課	主査	中川　史子
福祉・子ども部	障害福祉課	係員	前田　裕俊
	子ども室 子ども政策Ｇ	上席主査	道岡　幸絵
	生活福祉課	係員	髙畑　尚峻
街づくり部	都市政策室 住宅都市政策課	係員	森本　早紀
	都市政策室 開発指導課	係員	谷本　一真
	都市整備室 道路課	上席主査	水田　礼則
学校教育部	教育政策室 家庭教育支援Ｇ	上席主査	川口　達也
選管・公平・監査事務局		係員	大塚　将史
議会事務局		係員	椎葉　有理恵
上下水道局	総務課	主査	八幡　伸彦

2．活用内容（令和元年度）

令和元年の活動内容

令和元年度は、全５回の会議を開催。現庁舎の課題抽出や民間視察等を経た後、新しい庁舎のあるべき姿について、各班から発表を行った。

第1回　＜令和元年12月15日＞
これまでの庁舎整備の経過や検討過程、庁内PTの目的とゴールを共有するとともに、**テーマ設定のない自由な意見交換**を実施。

第２回　＜令和２年1月１６日＞
現庁舎の**課題**を、職員・市民の目線等から**洗い出す**とともに、解決策を検討。

第３回　＜令和２年2月１４日＞
株式会社コクヨを視察。最新のオフィス空間（執務室）や他市の先進的な取り組みや事例を体感後、ワークショップ形成で**新庁舎に欲しい要素**を検討。

第４回　＜令和２年３月５日＞
将来に向けた業務選定（未来永劫ある、10年後・30年後になくなる、新たに生まれる）を踏まえ、**職員・建物の在り方**を検討。

第５回　＜令和２年３月２３日＞
「新しい庁舎のあるべき姿」をテーマに、各班よりグループ発表。

第１回の活動内容

第１回　＜令和元年１２月１５日＞
　これまでの庁舎整備の経過や検討過程、庁内PTの目的とゴールを共有するとともに、**テーマ設定のない自由な意見交換**を実施。

◆第１回会議で出た意見

現庁舎の問題点
庁舎内の動線が悪い、通路が狭い、薄暗い
駐車場・駐輪場が狭い、危ない
トイレが和式
階段の一段の高さ（蹴上げ）が高い
エレベーターが一基しかなく、設置場所も悪い
窓口での待ち時間が長い
機能が分散しすぎている
公用車が不足している
個別空調ではないためコスト高い
個人情報の管理が甘い （誰でも執務室に入れてしまう）
執務室のレイアウトが悪く、仕事に支障が出ている
職員の休憩スペースが少ない

どんな庁舎にしたいか（ソフト面）
活気がある、明るい雰囲気
窓口の奥で笑い話
ワンストップ窓口
ＩＣＴ化
ペーパーレス
フリーアドレス
フレックスタイム
会議室の予約機能

どんな庁舎にしたいか（ハード面）
安全性、災害時の拠点となるべき庁舎
壁の少ない建物
様々な使い方ができる庁舎
全体的に明るく
聖地にする
駅の近くが良い
分かりやすいフロア
エレベーターの複数設置と広さの確保
バリアフリー化
きれいなトイレ
議場を対面式にする
おいしい食堂
会議室
コンビニ、カフェ
窓口機能のみにする
待ち時間をつぶせる機能
どこも真似のできない独自性のある庁舎
集えるスペース

PTで議論、実施していきたいこと
これからの庁舎の在り方について （防災？シンボル？必要性？など）
他市事例の研究や庁舎視察
若者の意見を聞く
ターゲットを絞ったアンケート実施
50年後、100年後を見据えた建物にするには
これまでの庁舎整備の経過の情報共有
組織や機構改革を踏まえた議論
PT各回後の課内報告会

これからの庁舎整備の進め方について
時間の期限を意識する
各行政計画との整合性を図る
各課へのヒアリング
大まかなスケジュールを示す
出前講座で庁舎の話をしていく
否決された原因の検証
区長の意見を聞く
議員の意見を聞く
財政面を考慮する

第２回の活動内容（その１）

第２回　＜令和２年1月１６日＞
現庁舎の**課題**を、職員・市民の目線等から**洗い出す**とともに、（現在目線から）解決策を検討。

◆第2回会議で出た現庁舎に関する課題（幅広い視点で抽出）

バリアフリーについて
エレベーター1基しかなく、広さも不十分
階段が急
扉が重い
トイレが汚いて古い。和式
階段、庁舎の照明が暗い
スロープが利用しにくい
段差が多い
庁舎・通路がせまい
難聴者に聴こえやすい環境でない
点字ブロックの完全に設置できておらず、つまづきやすい
弱視者に見えやすい床ではない

窓口について
高齢者の窓口が２階以上に配置
関係部署が離れているおり、移動が必要
転入者、死亡者関係の手続きがワンストップでない
混雑時に待合のベンチが足りない
市民課がいつも混んでいる
窓口から個人情報の書類が見えそう
執務室と待合の境が分かりにくい
休憩室が少ない
待ち時間をつぶせる空間がない

窓口対応について
窓口対応が遅い、申請に時間がかかる
手続き毎に氏名を書く、申請書が多い
役所に活気がない
職員によって判断、説明が異なる
プライバシーが保護されていない
面談室が少ない（議員・市民）
職員が何をしているかわからない、職員が多い
赤ちゃん連れが大変。窓口の説明もゆっくりできない
市民相談とかネットでやりたい
待ち時間が長く、待つ時間も分からない

開庁時間について
わざわざ窓口に行くのが面倒、時間がない
平日９－５時に行けない
住民票ひとつでわざわざ来ないといけない

電話について
電話がたらい回し
電話番号通知でない

広報について
どんな行政サービスがあるのかそもそもわからない
担当部署が分からない（ソフト）
機構改革で名称が変わり担当課が分かりづらい
制度が変わった時の案内が少ない
イベント等の周知が不十分
文書が難しく把握できない。知的障害者等にやさしくない

案内について
総合窓口で案内しても、目的地にたどり着かない
案内表示が少ない、わかりにくい
担当部署は何処にあるか分からない(ハード)
どの番号札をとればいいか分からない
避難の仕方が分からない
会議室の場所が分かりにくい
案内の紙が見づらく、案内の役割を果たしていない

駐車場について
駐車場・駐輪場が狭い。混雑時すれ違いにくい
職員駐車場が遠い

第２回の活動内容（その２）

◆第2回会議で出た現庁舎に関する課題（幅広い視点で抽出）

老朽化について
更衣室の環境が悪い、狭い、少ない
床タイルがはがれている、床が滑りやすい
空調が古く、快適な温度に調整できない
断熱が十分でない
雨漏れがある
建物が古くて壊れそう

会議室について
会議室が少ない、会議が多すぎる
会議室にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ等の機器がない
会議室予約の消し忘れが多い
必要以上に長い時間で会議室を予約している

執務室について
書類棚が不足
個人情報を管理できるスペースが不足
執務室が狭い
資料の収納スペースが狭い
各課が部屋で区切られわかりにくい
各課の場所がわかりにくい

清掃について
庁舎の清掃が不十分で、不衛生
ゴミが溢れている

ＩＣＴ関連について
パソコンが使いにくい
Ｗｉ－Ｆｉ環境が悪い
回線速度が遅い
議会中継の音が途切れる
ケーブル、配線類の整理ができていない
メールの打ち出しが面倒（庶務業務）
外部メールでの書類添付が煩雑
ﾒｰﾙﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞに時間がかかる
ソフトウェア、アプリの性能が悪い、お金をかけない
データのやり取りがしづらい（容量制限）
ネットにつながっていないPCがある

セキュリティーについて
ｾｷｭﾘﾃｨに不安がある
危険物を持ち込ませない造りになっていない

市役所までの道のり
道がせまい
駅から遠い
庁舎玄関までの道が車通りが多い
庁舎前の車の往来が危険

その他
緑がない
災害対策本部の設置場所がない
市のシンボルとなるような建物になっていない
張り紙が多い

働き方について
役職が多すぎる
仕事の分配が硬直的
適正な人員配置が出来ていない
休憩時間が短い・出勤時間が固定されている
横のつながりが希薄
決裁者が多く、決裁までに時間がかかる
決裁が紙のため、歩いて回る必要がある
合議の要不要が分かりにくい
紙が多い、使用量が多い
郵便処理が混雑する
メールのやり取りが曖昧
簡単なことでも他部署の内容は把握できていない
他の人の仕事がわからない。共有不足。
職員の無関心、全庁的な視点の欠落
異動発表が直前すぎて引継ぎが十分に出来ない
入力作業が多い
紙での申請が多い
会計・契約事務がややこしい
財務会計システムが煩雑でわからない
本業以外の業務をする場合の配慮が少ない
データの所在が不明で、必要な記録が残っていない
災害時の行動規則が分からない
職員の仕事改善意識が少ない
危機感の欠如（財政がひっ迫しているにも関わらず日常と変わらず目の前の業務に必要な費用を要求）

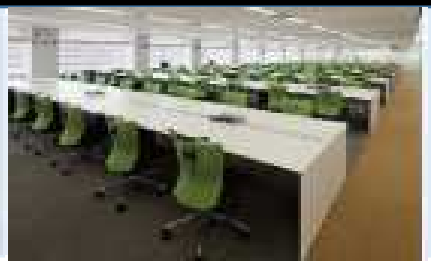
第３回の活動内容

第３回　＜令和２年2月１４日＞
株式会社コクヨを視察。最新のオフィス空間（執務室）や他市の先進的な取り組みや事例を体感後、ワークショップ形成で**新庁舎に欲しい要素**を検討。

◆第３回会議の流れ（ワークショップ形式）

（１）コクヨの最新オフィス空間を見学
↓
（２）各人が取り入れたい事項や導入する際の課題等を整理
↓
（３）５名程度の班毎に意見を集約し、新庁舎に取り入れたい要素を発表

＊新庁舎に取り入れたい要素の一部

新庁舎に取り入れたい要素	消耗品の共有化	快適な椅子	フリーアドレス	ペーパーレス会議
				
取り入れたい理由	・無駄の削減 ・経費削減 ・ゴミ削減 ・フリーアドレスなら導入したい	・健康維持 ・生産性向上	・コミュニケーションの活性化 ・省スペース化 ・ペーパーレスの促進 ・チームアドレス運用がよい ・物や場所に縛られたくない	・スペース削減 ・回覧物の印刷が不要 ・紙書類の削減
障害となりそうなもの	・予算執行 ・今あるものをどうするか	・費用 ・市民からの目線	・固定電話の廃止 ・紙の決裁の廃止 ・どこにだれがいるのかの把握できない ・ＩＣＴの導入に関わる費用で実現困難	・紙を減らすとデータが増える ・データ管理方法が確立していない ・高齢者がついていけない

第４回の活動内容（その１）

第４回　＜令和２年３月５日＞
　将来に向けた業務選定（未来永劫ある、10年後・30年後になくなる、新たに生まれる）を踏まえ、**職員・建物の在り方**を検討。

◆第４回会議での主な意見

■テーマ１-①　今、行政が担っている役割・機能はどのようなものか　【未来永劫あるだろう】

社会的弱者の救済、福祉業務、教育、相談業務、生活相談、災害対応、まちづくり、インフラ整備、避難場所の整備、防災拠点の整備、危機管理、安全対策、地域の困りごと対応、地域救済活動、市税の賦課、徴収納税相談、議会運営、選挙の実施、公民連携、市の運営方針の決定、市の意思決定、集える場所の提供、公文書管理、市のPR、公的機関との調整、許認可、ルール作り

■テーマ１-②　今、行政が担っている役割・機能はどのようなものか　【30年後くらいになくなるだろう】

証明書発行、戸籍届出等の受付、パスポート申請受付、健康保険事務、広報だいとう・議会だより、（市町村単位での）水道事業・ゴミ回収・住基台帳管理、来庁型の生活相談、税金の決定や徴収事務、助成金の支給、社会福祉サービスの提供、公共施設の維持管理、インフラ整備、広域連携、庁内のとりまとめ

■テーマ１-③　今、行政が担っている役割・機能はどのようなものか　【10年後くらいになくなるだろう】

各種届出・証明業務（異動届出、住民票交付、印鑑登録・廃止、子育て関連の申請等）、窓口相談、相談業務、待機児童の減少解消、ゴミ回収、選挙事務、会議の調整・準備、税にかかる事務、文書保存、情報発信、補助金、防犯、工事、コールセンター、システムが使えない人

■テーマ１-④　今後新たに担うべき役割はどのようなものか　【新たに出てくるだろう】

ICT・AI・RPA関連業務、電子化、情報化、クラウド化、ネット上での交流の場、災害時の出勤、災害時などの子供の受け入れ態勢、教育政策、多様化する社会問題への対応（虐待、引きこもり等）

＊班毎の意見を、重複する部分等を修正した上で、テーマ毎に一括して記載している。
＊各班により、判断が異なる役割等があるが、そのまま記載している。

第４回の活動内容（その２）

◆第４回会議での主な意見

■テーマ２　これからの職員の働き方（業務内容）は、どのように変化していくことが予想されるか。また、そのように考える理由は。

＊各班毎に発表したものの、一部を掲載

〇知識を持ったスペシャリストとしてではなく、知恵のあるゼネラリストとしてはたらいていくことになる。（30年後くらい）

➡理由　・職員数の減少　・職員は庁舎におらず地域へ出ていく　・一人の職員が多種多様な業務に携わる

〇一か所に皆が集まって同じ仕事をすることはない。役所に留まって仕事をすることはない。（災害リスクもあるため）

〇受け身ではなく、職員自ら気付く体制づくり（公聴は非常に重要であるため）

➡理由　・IT化が進んでいるので、集まる必要がなくなる　・コロナの件でもそうだが、画一的な働き方はリスクがある

〇「住民を主役に押し上げ、サポーターに徹する」
地域に入って地域課題を発見し、住民を巻き込んで住民に主役になって課題解決していく実績を作ることによって、住民主役思想を浸透させていく。

➡理由　・住む地域の主役が住民自らであるという認識が広がれば、自らの生活環境をより良くしようとする行動に現れて、さらに一人一人の力が集まることによって、その実現が期待できるため。
・職員が役所の中にいるだけでは、地域に潜んでいる課題を見つけにくい。見つけても細やかなサポートがしにくい。
・行政職員が身近にいれば、住民も行政に声を届けやすくなる。行政が身近でサポートしてくれる安心感も生まれやすく、地域主役になろうとする意欲にもつながる。

〇時間と空間に捉われることなく、市民と職員のあふれる笑顔を求めていく

➡理由　・機械化が進む一方、その評価・確認を行う業務は市が担う
・電子化が進む　・業者への委託などでどこにいても働けるようになる
・サポートや責任者、運営など市庁舎で行う業務も残る
・人が働くのではなく機械に働かせる（機械に働かされてる？）
・作業効率を良くしてワークライフバランス
・要らない長時間労働がなくなる一方、成果主義になる

第４回の活動内容（その３）

◆第４回会議での主な意見

■テーマ３　新しい庁舎が担うべき役割や備えるべき機能はどのようなものか

＊各班毎に発表したものの、一部を掲載

【役割】●市民が集まる場所（コミュニティルーム）の設置（ざっくばらんに話を聞くことができる。公聴につながる）
●防災拠点（分散化することも重要）

【機能】●アイデアが生まれやすい環境を整える
（例：コクヨ→カフェスペース、アウトドア会議、疲れない椅子、集中ルーム等）
→職員の業務が画一的なものからクリエイティブなものになっていく
●市民サービスの部分と政策関係を完全分離する

【役割】意思決定、情報の集約・発信、地域間の連携、地域格差が生まれないよう管理監督

【機能】社会の変化に対応できるレイアウトを備える

【役割】防災機能

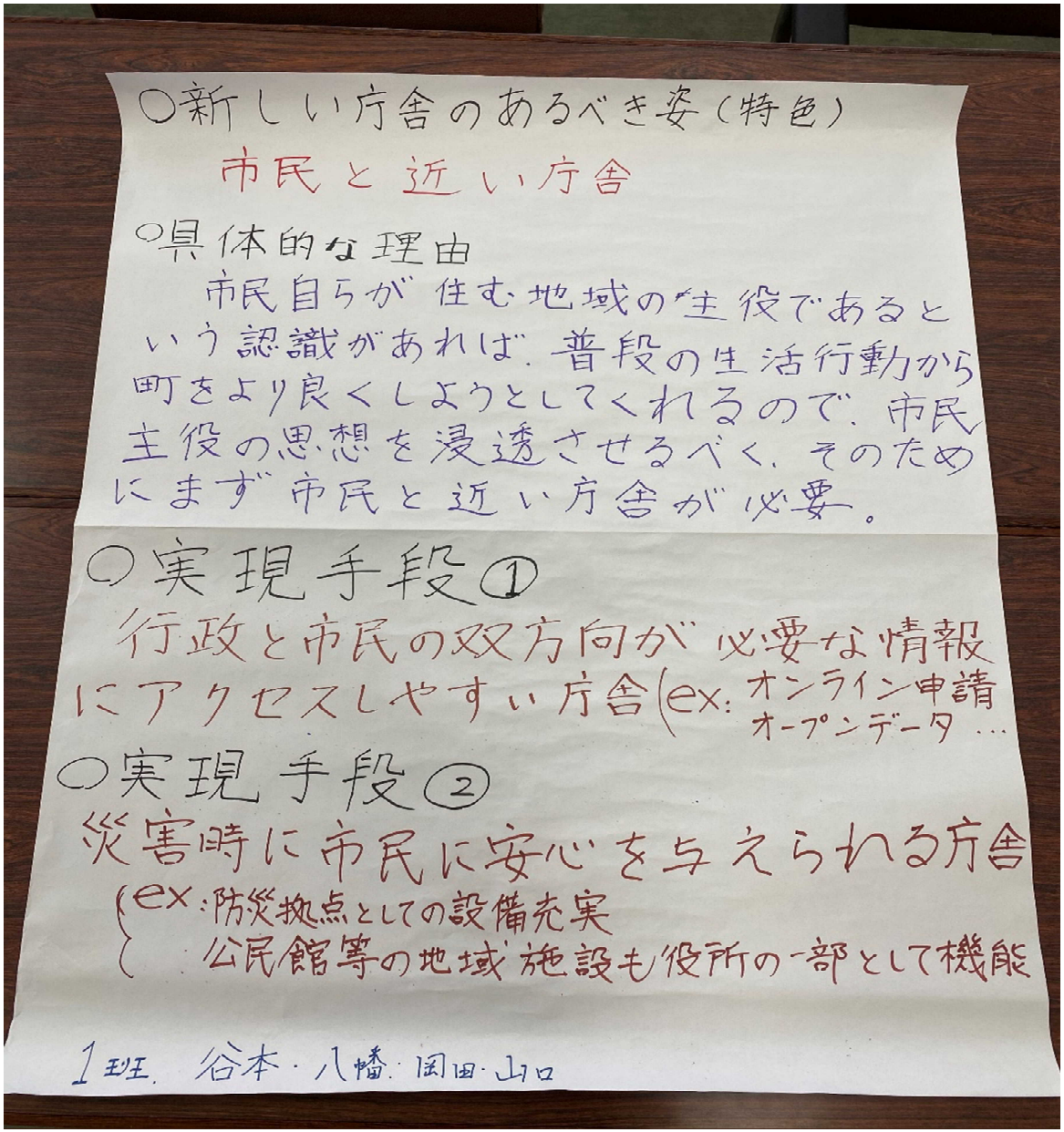
【機能】職員減などに対応できる可能性をもったレイアウト構造（フリーアドレス等）、フラットな交流の場

【役割】防災拠点、省エネ、長寿命化、市民サービス
（結論）賃貸であれば柔軟に対応できる（備品もリース）

【機能】防災拠点（フリースペースを用意しておく→平時の際には健診などにも使えるように）、市民サービス、
消毒・殺菌できる空調など、何かあったときに使える場を確保しておく備蓄倉庫、文書の保管

第５回の活動内容（その１）

◆第５回会議での各班からの発表（新しい庁舎のあるべき姿）

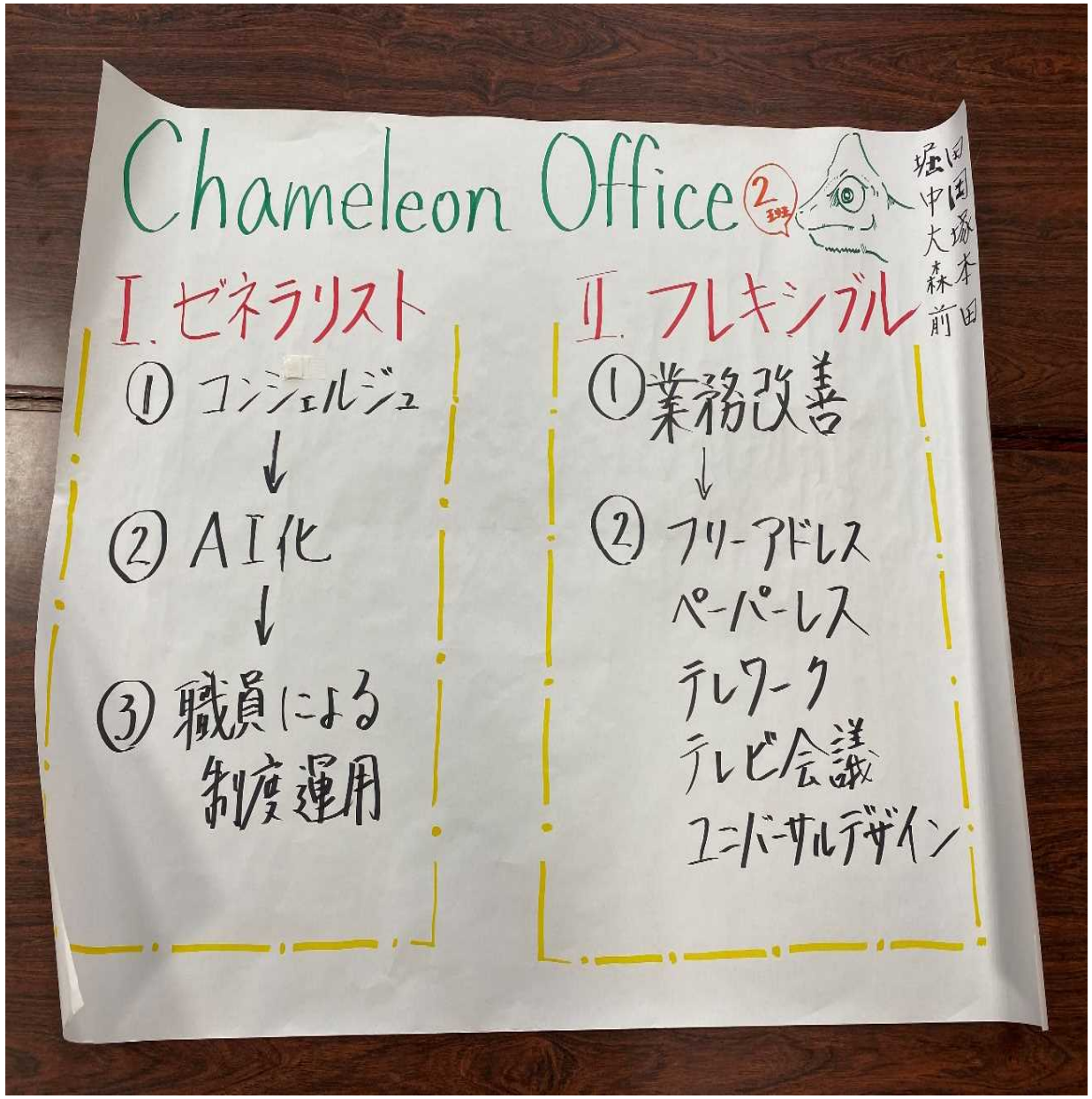


発表内容の補足

○市民自らが主役という認識を持って、日々から行動してもらう
○その思想を浸透するのを手助けできるような庁舎にするべき
○行政と市民の双方が情報にアクセスしやすい庁舎
（情報共有）
○災害時に市民に安心を与えられる庁舎
○公民館などに役所の機能を持たせる
○防災拠点としての充実
（市役所庁舎自体が機能しているということが市民に安心感を与える）

第５回の活動内容（その2）

◆第５回会議での各班からの発表（新しい庁舎のあるべき姿）

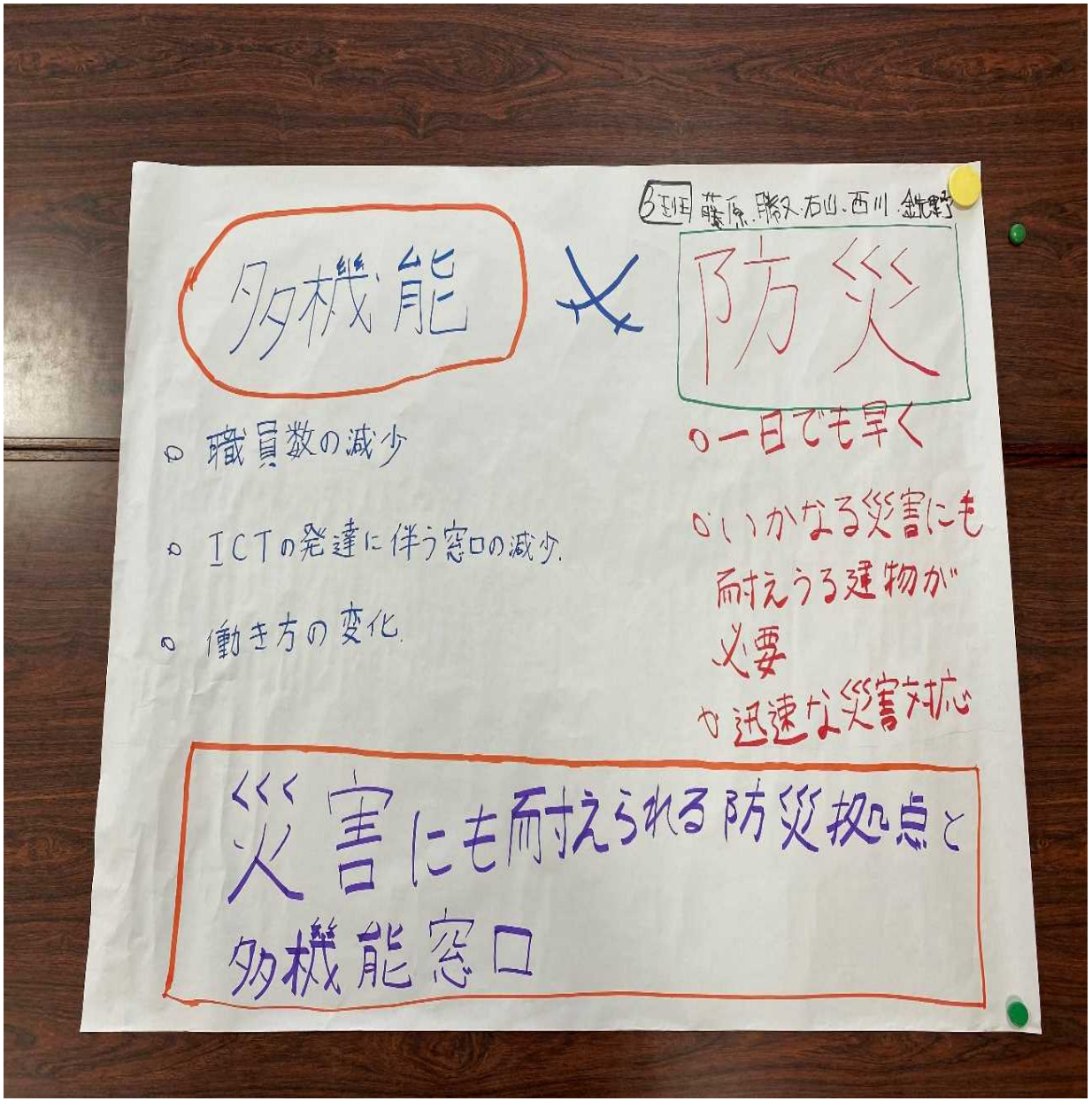


発表内容の補足

○『カメレオンオフィス』 ソフトとハードに分けて検討
○ソフト・・・ゼネラリストとしての働き方が求められる。
　なんでもできる、何でも解決してくれる能力が必要
○今でいうコンシェルジュ、これが進化してAI、最終的には、
　職員はそれらの制度を運用するだけとなる
○これが実現できれば、職員数は減少できる
○ハード・・・今、この建物にあるものを業務改善したうえで
　新庁舎にもっていく
○さらにそれをブラッシュアップしていけば、ハード面も必要な
　ものがどんどん少なくなっていく
○余った部分を貸会議室に活用するなど、フレキシブルな構造
　にするべき

第５回の活動内容（その3）

◆第５回会議での各班からの発表（新しい庁舎のあるべき姿）

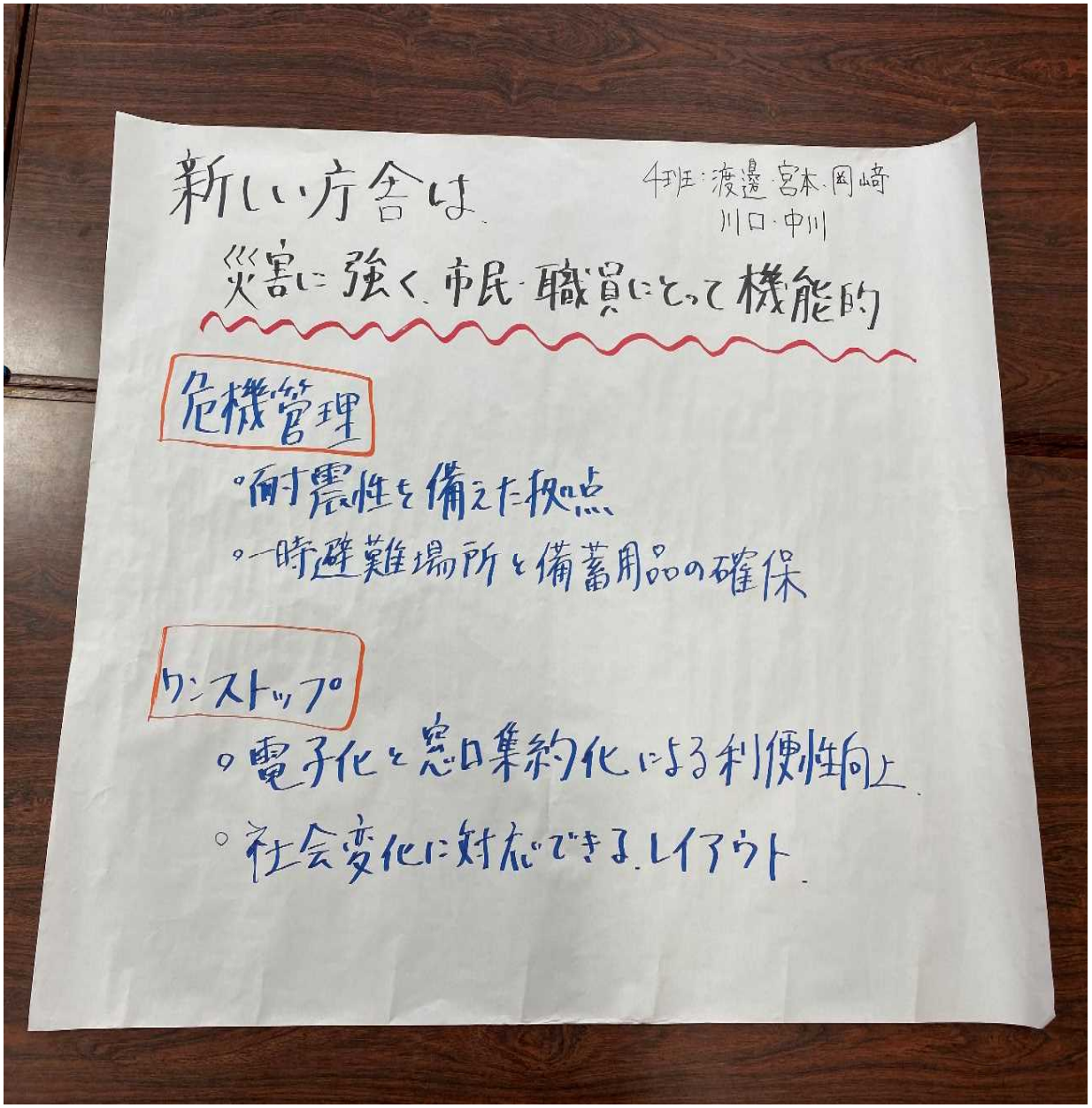


発表内容の補足

○災害に耐えられる防災拠点と多機能窓口
○防災：有事の際には迅速な災害対応が必要
　⇒本庁にあるべき
○いかなる災害にも耐えうる建物
○多機能窓口　　10年後には職員が３分の２
○ICTの発展で窓口も減少する
○一人が一つの業務をするのではなく、職員自身も多機能に（コンシェルジュの発展）
○いろんな業務ができるように、チームで業務に取り組む
○ハードでいうと、柔軟なレイアウト

第５回の活動内容（その４）

◆第５回会議での各班からの発表（新しい庁舎のあるべき姿）

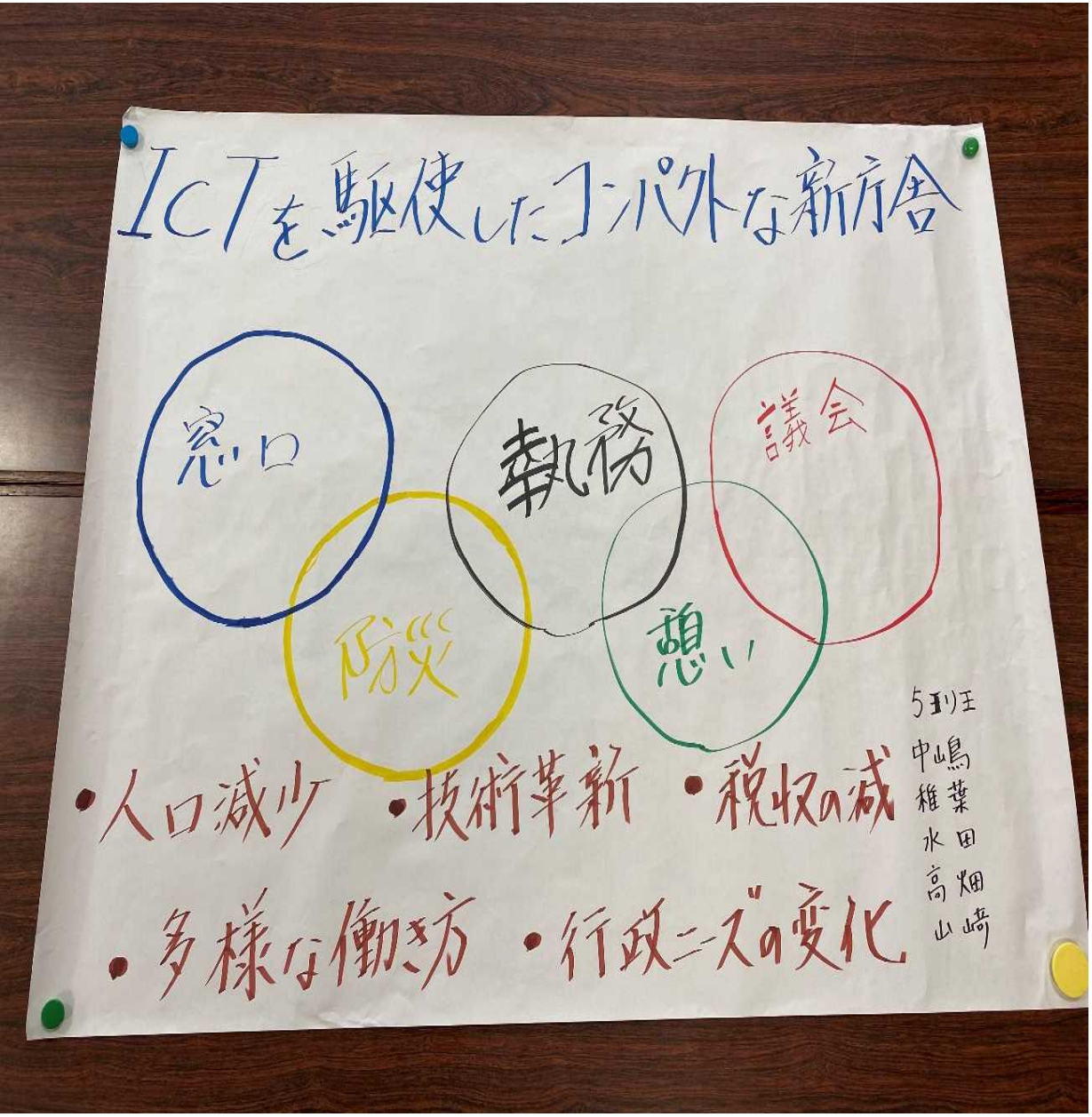


発表内容の補足

○災害に強く、市民・職員にとって機能的な庁舎
○危機管理
（耐震性を備えた拠点、備蓄用品を確保している）
○ワンストップ
（窓口を集約化、電子化によって事務負担を軽減しつつ市民の利便性を向上）
○社会変化に対応できるレイアウト
○例えば、現庁舎では、障害福祉課が２階にあるが、将来的に１階に移動できるなど、柔軟に場所を変更できるレイアウトが必要

第５回の活動内容（その５）

◆第５回会議での各班からの発表（新しい庁舎のあるべき姿）



発表内容の補足

○ICTを駆使したコンパクトな新庁舎
○今後、いろいろな技術が出てきて、それに伴って、市民の生活スタイル、我々が提供する行政サービスも変化していくだろう
○ICTを駆使することで、直接市民が来庁してサービスを受けているが、今後、自宅などでそのサービスを受けることができるようになることによって、来庁者が減少する
○職員の業務でも、自動化できるものも増え、職員数も減少する
○規模もそれほど大きいものはいらないということでコンパクトな庁舎
○窓口がどれだけ便利になったところで、手続きに来られる方はいるだろう
○一定数の職員数（執務スペース）はもちろん必要
○議会機能
○憩い：場所によって、その意味合いは変わってくるが、サブ的には必要
○コンパクトにすることで、建設費、維持管理費も削減できる